

様式第 1 号

会 議 録

会 議 の 名 称	第 7 回 所沢市産業振興ビジョン策定委員会
開 催 日 時	平成 29 年 11 月 2 日(木)10:00~11:00
開 催 場 所	所沢市役所高層棟 8F 大会議室
出 席 者 の 氏 名	朝倉はるみ 荻野敏行 河藤佳彦 村山聡(代理出席) 久野美和子 千年篤
欠 席 者 の 氏 名	政所利子
説明者の職・氏名	
議 題	(1) パブリックコメント手続きの実施結果等について (2) 所沢市産業振興ビジョン(最終案)について (3) 意見交換等 (4) その他
会 議 資 料	資料 7-1：所沢市産業振興ビジョン(案)に対する「ご意見と市の考え方(案)」 資料 7-2：所沢市産業振興ビジョン(最終案) 資料 7-3：答申書(案)
担 当 部 課 名	産業経済部 部長 村松由朗 産業経済部 次長 増田謙二 産業経済部 産業振興課 課長 青木邦雄 主査 村田貴紀 主任 菅井悠登 産業経済部 商業観光課 課長 柳田晃芳 主幹 吉永寿久 産業経済部 農業振興課 課長 三枝恵一 産業経済部産業振興課 電話 04-2998-9157

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
青木課長	開会
河藤委員長	あいさつ
委員長	<p>まず、本日の意見交換の前提を確認すると、前回までの委員会で、当委員会としての産業振興ビジョンに対する見解を事務局に示しており、それを反映した素案をパブリックコメントにかけたということになる。したがって、本日は、パブリックコメントで寄せられた市民の意見に対する対応（案）が適切なものとなっているかどうか、という点について審議することとなる。</p> <p>議題（１）パブリックコメント手続きの実施結果等について</p>
事務局	資料 7-1 に基づき説明
委員長	資料 7-1 及び事務局の説明について、委員各位のご意見を伺いたい。
委員	<p>意見 N02 と N03（ソーラーシェアリングに係る意見）については、よく勉強されていて有意義な提案であると感じた。ソーラーシェアリングが実務上有効なのかどうか興味がある。産業振興ビジョンの中にソーラーシェアリングと明記しないまでも、こういった具体的な提案は、農業委員会なり市の関係部局なりどこか適切な組織において取り上げ、事業として成立するのかなどを勉強するといった対応があってもいいのではないか。</p> <p>意見 N06（もっと具体的・建設的な提言を盛り込むべきという意見）に関して。この委員会でも最初の素案の段階ではかなり抽象的な表現が多く、もっと具体的な提案をした方がいいという指摘をしてきた経緯があり、その結果だいぶ改善されてわかりやすいものになったと思っている。しかし一般市民から見ればこれではまだ抽象的で、もっと具体的な記述がほしいという指摘であろう。だいぶ改善したつもりであっても、一般市民からはまだこういった意見が出るのだという感想を持った。</p>

事務局	<p>市としては、「マチごとエコタウン所沢構想」を策定し、市長が先頭に立って環境に配慮したまちづくりや再生可能エネルギーの活用に取り組んでいる。また、議会でも一般質問でこういった（ソーラー関連の）提案について質問が出たりしている。国の動きとしても、農地の部分的な活用が可能になるよう様々な検討や制度改正が図られつつあるところである。本市としても、環境関連部局においては総合的な取組の中でソーラーシェアリングについてもひとつの方策として検討している。ただ、この産業振興ビジョンにおいては、市の様々な分野の計画との整合を図りつつ総合的に取り組んでいくことが大前提となるため、ソーラーシェアリングについても農業振興に関する重要な課題のひとつとして捉えているというご説明をしたいと考えている。</p>
委員長	<p>産業振興ビジョンの趣旨を踏まえれば、個別具体の提案としてソーラーシェアリングに言及することはしないが、課題認識は持っている、という説明になるであろう。</p>
委員	<p>この意見を出された方のように、環境問題に関心のある人は、恐らく色々な場面でこのような意見を言ってくるだろう。問題意識の高い市民がいるということは素晴らしいことである。例えば「主要施策2-3-1 遊休農地の利活用」の部分で、「異業種との連携を進めていく（例：ソーラーシェアリング等）」という表現を加えるなど、何らかの形で市民の意見を反映した修正を加えたことを示すことも重要ではないか。</p> <p>ただ、あまり具体的な提案をビジョンに盛り込んでいくと、企業や個人の利害に関わる部分がどうしても出てきてしまうので、こういう書き方にならざるを得ないと思う。市の産業振興の方向性を示すのが産業振興ビジョンなので、最大公約数としての方向性を示すことが重要である。</p>
委員	<p>産業振興ビジョンなので、表現が抽象的にならざるを得ないのは仕方ない。このビジョンを基としてより具体的な事業計画を作っていく中で取組をさらに具体化させていくのが普通のやり方であり、その事業計画の中にはソーラーシェアリングなどの提案も入れていく、ということを知ってもらえればよいのではないかと。ビジョンの性格や下位計画との関連性を丁寧に説明したらよいと思う。ち</p>

<p>委員長</p>	<p>なみに、このビジョンの下位に位置付けられる具体的な事業計画はこれから作るのか。</p> <p>本ビジョンにはアクションプログラムまで示されている。これを踏まえて、毎年度、事業計画を立てて予算措置をし、事業を実施していくという流れになると理解している。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員長の認識のとおりである。本ビジョンは大きく基本構想（3章）と実施計画的な要素を含む部分（5章）で構成している。さらに、重点事業を施策の柱ごとに示しており、これらは来年度予算措置を考えているものである。それ以外の事業については時期に応じて必要な措置を検討し、総合計画の実施計画の中に位置づけながら実施していく。その際の基本的な考え方としては本ビジョンのアクションプランがベースになる。</p>
<p>委員長</p>	<p>意見 N02・N03 のソーラーシェアリングという具体的な提案に対する対応について、これまでの各位の意見を踏まえ整理すると、3つのやり方が考えられる。1つ目はこのまま（資料 7-1 のまま）でよいというもの、2つ目はビジョンに「ソーラーシェアリング」という文言を加えるというもの、3つ目は事務局から説明があったような具体的な内容をもう少し「市の考え方」に丁寧書いて説明していくというもの、この3つのやり方があるのではないかと。資料 7-1 の「市の考え方」の書きぶりでは、市の意図が十分伝わらないのではないかと意見が多かったように思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>副委員長のご指摘の通り、個人や企業の利害が関わる内容については慎重な対応をしなければならないが、考え方については示せるものと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>ソーラーシェアリングを導入することが所沢市にとって本当によいのかどうかはわからない。日照権や災害の問題などもある。個人的にはその効果については懐疑的だが、可能性の一つとして否定すべきものではないし、関心の高い市民がいることも素晴らしいことである。貴重な意見として検討していきたいということがもっと見えてくる方がよいのではないかとと思う。</p>

事務局	<p>市としてもソーラーシェアリングを否定しているわけではないので、課題として認識しているということを説明していきたい。</p>
委員	<p>松が丘調整池にフロートソーラーが敷設された。事業主体やあの場所が遊休地なのかどうかといった詳細はわからないが、個人的には良い取組だと思った。ソーラーシェアリングが本当にこんなによい話ばかりなのかどうかはわからないが、実際にソーラーに投資した人は既にずいぶんリターンがあるという話も聞く。新しい遊休農地の利用促進方法のひとつとしてソーラーの活用などと言入れてもよいのではないか。</p>
事務局	<p>ソーラーシェアリングが所沢市に適した方策かどうかという問題があるなかで、現時点で遊休農地の解消策の一つとしてビジョンに明示するのは難しい。遊休農地は大きな課題であるが、その解決策としてソーラーがよいのかという問題がある。ソーラーパネルを敷設するのは何も遊休農地でなくてもいいだろうし、逆に景観面や費用対効果の面でも様々な問題が懸念される。生産者には（ソーラーシェアリングは）ひとつの方法として周知しているが、作れる作物が限定されるなどの課題も多い。ソーラーシェアリングを否定するものではないが、具体的に書き込むのは難しい。</p> <p>市の意図が伝わるようもう少し丁寧な回答へ修正する。</p> <p>議題（２）所沢市産業振興ビジョン（最終案）について</p>
事務局	<p>資料 7-2 に基づき説明</p>
委員長	<p>産業振興ビジョン（最終案）について各位意見があればうかがいたい。特にインバウンド戦略について重点的に書き込みを行ったということだがこの点についてはどうか。</p>
委員	<p>国も旗を振ってインバウンドを進めていくという方向を示しているので、市としてもインバウンドをビジョンに書き込むのは重要なことである。ましてや、ところざわサクラタウンという拠点ができるのは他にない圧倒的な強みなので、これを活かし積極的にインバウンドを取りに行くという姿勢を示すことが重要である。</p> <p>P55 で「外国人観光客」という言葉が出てくるが、「インバウン</p>

事務局	<p>ド」という用語は既に普及しているので、「インバウンド」で統一してもよいのではないか。</p> <p>また、「インバウンド戦略」といっても、誘致をするための戦略と来てくれた観光客への対応戦略との両面がある。可能であれば「インバウンド誘致戦略」、「インバウンド受け入れ態勢充実戦略」と言ったように書き分けた方が、どちらへの対応なのかがより市民にもわかりやすい。誘致策と受入態勢の整備は全く別の施策なので、可能であれば書き分けたいと思う。</p> <p>基本方針3はボリュームが多く、重点事業だけでも他より多くの事業を出している。紙面が限られているので制約はあるが、例えば重点事業の「インバウンド戦略推進事業」に係る記述の部分で、この戦略には誘致と受入体制の充実の両面から対策を図ることが示せるような修正ができないか、事務局で検討したい。</p>
委員	<p>大がかりな加筆修正を求めているのではなく、「インバウンド戦略」と書いてある部分に（ ）書きで一言加えてもらえばよい。「インバウンド戦略（誘致）」とか「インバウンド戦略（受入体制の充実）」など、どちらの対策かがわかればよいというだけである。</p>
委員長	<p>今のインバウンドに関わる修正の部分は、事務局で修正案を作ってもらい、当該修正について提案いただいた委員とすり合わせをしてもらいたい。</p>
委員	<p>P62 重点事業5（SNS 活用事業）の目標指標がフォロワーの数というのは妥当な指標なのか、またこの数値では少ないのではないか。</p>
事務局	<p>市の広報課が配信しているフェイスブック、Twitter とは別に、商業観光課もフェイスブックと Twitter を開設しており、実は市の広報課のものを 1000 件近く上回る「いいね！」をもらっている。これまでのフォロワー等の増え方の推移を踏まえ、今後 100 くらいずつ増えると順調に増えていることが確認できると考え、目標数値とした。今後カドカワとの合同事業が進展しコンテンツが充実したりといったことを見越せば、もっとフォロワーが増えていくことも可能性としてはあり得ると思うが、これまでの実績を踏まえ 100 ず</p>

	<p>つくらい増えるという傾向が見えればということである。</p>
委員	<p>P62 重点事業4（体験農場利用者ステップアップ事業）の目標指標だが、事業への参加者数が現状値 296 人から目標値 300 人では少ないのではないか。</p>
事務局	<p>体験農場の利用者数を目標としているため、体験農場自体を増やしていかないと目標人数は大きく増やせない。</p>
委員	<p>インバウンド戦略については良く書き込んだと思う。メリハリのないビジョンよりも、特に力を入れるところ、「とんがった」ところを示すことが産業振興ビジョンでは大切であり、その意味で、インバウンドに特に力を入れていくという方向性を示すことは重要である。日本のまちは夜遊べないというのが外国人観光客にとって不満らしい。いろんな意味で楽しめるまちづくりが望まれている。パブコメでも所沢独自の飲食店についての意見もあったが、インバウンド戦略の中でも十分対応できる。</p> <p>アニメーションを軸にした観光戦略は今後成長の見込みがあると思う。ところざわサクラタウンができるのをぜひ活かしてほしい。</p>
	<p>議題（4）その他</p>
事務局	<p>資料 7-3 に基づき説明</p>
委員長	<p>答申書(案)について、委員各位のご意見があれば伺いたい。</p>
一同	<p>(異議なし)</p>
委員長	<p>事務局から説明のあったとおり、11 月 14 日に答申予定、今後の対応については委員長・副委員長一任ということによろしいか。</p>
一同	<p>(異議なし)</p>
	<p>閉会</p>

以上